

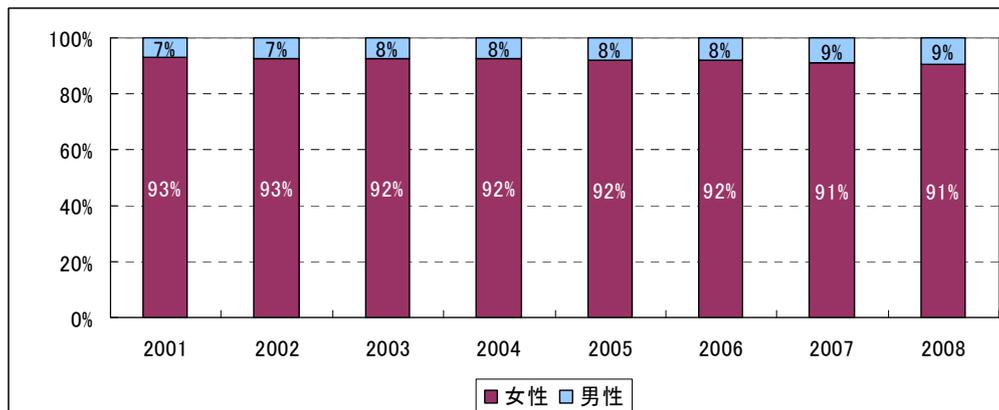
2. 医療分野への女性の参画

(1) 医療分野における女性の参画の実態

① 女性医師・看護師数

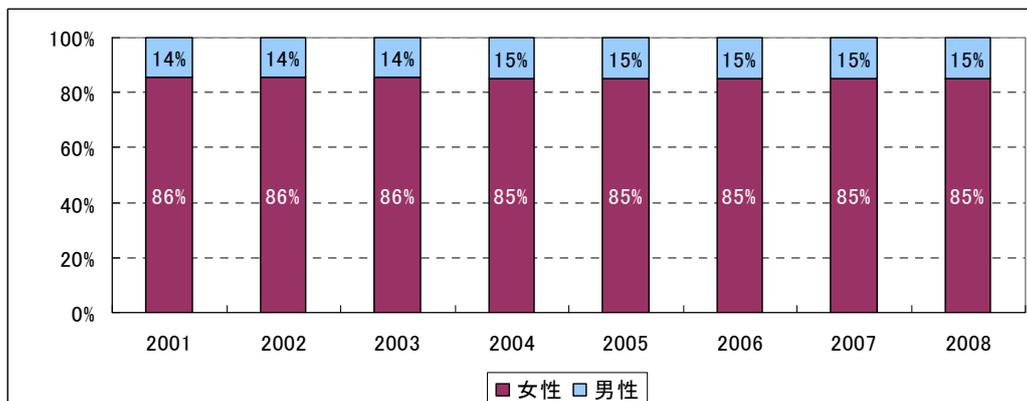
医療従事者のうち、女性の比率が高いと考えられる看護師及び助産師においては、2000年以降女性が9割以上を占めているが、僅かずつではあるが、男性の比率が高まっている。また、看護師を除く医療従事者全般で見ても、女性が占める割合は85～86%程度で推移しており、看護師、助産師と同様に女性の比率が高い。

図表 2-10 看護師及び助産師⁶の推移



出典：Statistic Sweden (2008) *Labor Force Survey*

図表 2-11 医療従事者 (Health Professional) の推移



出典：Statistic Sweden (2008) *Labor Force Survey*

医療従事者のうち、医師（内科医）に限って女性の参画状況を確認すると、1950年にわずか9%であった女性医師割合は増加を続け、2005年時点で43%となっている。さらに、スウェーデン医師会の2005年における推計によれば2015年には50%を突破すると考えられている。

⁶ 数値は看護師と助産師を合わせたもの。

図表 2-12 医師数（内科）（1950-2020年）（<65歳）

年	医師数	女性の割合 (%)	人口/医師数
1950	4,900	9	1,440
1960	7,100	13	1,060
1970	10,600	17	770
1980	18,000	25	460
1990	24,000	34	350
2000	28,000	39	320

2005	29,400	43	310
2010	30,800	47	300
2015	30,400	51	310
2020	30,600	54	320

出典：Swedish Medical Association（2005）*Physicians in Sweden 2005*

② 専門分野ごとの女性医師の割合

65歳未満の医師について専門分野ごとの女性参画割合をみると、女性医師比率が最も高い専門分野は小児精神科であり（65%）、次いで婦人科腫瘍学が64%である（ただし、母数である腫瘍分野の専門医数が74名と少数である）。そのほか、女性比率が50%を超える専門分野は、産婦人科（57%）、眼科（52%）、老年医学（61%）、小児・若年神経科（55%）、精神科（50%）、凝固及び血液疾患（50%、ただし少数）、学校保健（58%）、皮膚科・性病科（61%）、リハビリテーション医学（54%）である。

図表 2-13 専門分野ごとの医師数（2005年1月1日）（<65歳）

専門分野	男性	女性	合計	女性の割合 (%)
一般外科	1,290	212	1,502	14
整形外科	929	105	1,034	10
泌尿器科	280	38	318	12
小児外科	66	39	105	37
手の外科	64	25	89	28
形成外科	88	23	111	21
神経外科	98	7	105	7
胸部外科	114	12	126	10
麻酔科	923	367	1,290	28
産婦人科	514	688	1,202	57
婦人科腫瘍学	27	47	74	64

専門分野	男性	女性	合計	女性の割合 (%)
耳鼻咽喉科	395	172	567	30
聴覚医学	46	23	69	33
音声医学	13	6	19	32
眼科	281	305	586	52
内科	1,886	874	2,760	32
循環器科 (心臓)	508	129	637	20
消化器科	181	45	226	20
内分泌学	123	62	185	34
腎臓	154	65	219	30
呼吸器科	173	113	286	40
血液内科	122	67	189	35
アレルギー科	66	47	113	42
リウマチ科	139	125	264	47
産業医学	43	21	64	33
老年医学	264	415	679	61
小児科	669	554	1,223	45
小児・若年アレルギー科	52	24	76	32
小児・若年神経科	37	46	83	55
小児・若年循環器科	28	6	34	18
新生児科	66	26	92	28
家庭医学	3,190	2,355	5,545	42
精神科	750	763	1,513	50
司法精神医学	31	22	53	42
診断放射線科	681	293	974	30
神経放射線学	60	19	79	24
小児・若年放射線科	33	26	59	44
輸血検査学	33	25	58	43
凝固及び血液疾患	8	8	16	50
臨床免疫学	44	22	66	33
微生物学	71	47	118	40
臨床ウイルス学	25	23	48	48
臨床生理学	136	53	189	28
臨床神経生理学	44	10	54	19
臨床化学	103	40	143	28
臨床薬理学	61	16	77	21
臨床遺伝学	18	9	27	33
臨床病理学	132	70	202	35
臨床細胞学	65	29	94	31
法医学	21	10	31	32
地域医療	39	20	59	34
産業保健	421	167	588	28
学校保健	30	41	71	58
皮膚科-性病科	138	218	356	61
神経科	232	91	323	28
感染症科	296	165	461	36
リハビリテーション医学	100	119	219	54

専門分野	男性	女性	合計	女性の割合 (%)
腫瘍学	157	147	304	48
栄養学	5	2	7	29
疼痛管理	76	24	100	24
核医学	64	14	78	18
専門医認定資格なし	16,816	9,742	26,558	37
不明	12,937	7,882	20,819	38

出典：Swedish Medical Association (2005) *Physicians in Sweden 2005*

(2) 医療分野における女性の参画を阻む障害

① スウェーデンにおける医療職のとらえかた

スウェーデンは、女性の労働力率が高いことでも知られているが、女性労働力の多くが投入されている分野が公務、特に福祉部門だとされており、医療・福祉関連業につく女性は多い。特に医療職では、看護師のほか、医師においても女性比率は向上（2010年で47%）しており、女性医師は既に珍しい存在ではないと考えられる。

② データから見る女性の参画を阻む障害

スウェーデンでは2015年には女性医師の比率が50%を超過するといわれており、医師養成過程における女性参画を阻む障害ほとんど克服される見通しである。

一方で、医師としてのキャリアのあり方については、男女で大きな差異が見られる。外科系をはじめとする一部の臨床系専門分野では女性医師の比率が低く、また、女性比率の高い診療科が限定される傾向にあることから、業務への拘束時間を主因として「女性の働きにくさ」が残っているものと思われる。

また、女性の専門医認定資格の保有率は38%に留まっており、女性医師がキャリアを形成する際、男性医師と比較し不利な状況に置かれている可能性がある。

(3) 医療分野の参画に関する取組

医師に対する個別の取組は実施されておらず、全般的な取組に準ずる形で女性に対する支援が行われている⁷。

⁷ スウェーデン医師会に対する現地ヒアリング調査においても、医師に対して特別に実施している取組はないとの回答であった。